

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200651		
法人名	株式会社 小野		
事業所名	グループホーム吉岡 楽々苑		
所在地	倉敷市吉岡344番地		
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 24 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=3390200651-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成26年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様第一主義に立ち、ご入居者様及びご家族様から愛され信頼されるスタッフに成り得る為に、毎月の様々なテーマで実施してきた社内研修を継続している。研修を繰り返す事で、当事業所が目指す「人生の先輩に対する尊敬の意を込めた声かけ及び介護サービスの提供」を完璧に実現する為に今後も職員の教育には特に力を入れていきたいと思う。また、ご入居者様には「施設で生活する環境にあっても、選択の自由が提供されている」と実感して頂けるよう、出来る限り要望にお応え出来るように必要に応じてスタッフを増員する等の配慮を実施している。決められた制服や髪型にとらわれない自由な社風を活かし、よりご入居者様に安心頂けるようなアットホームな環境づくりも心掛けています。いきいきと生活するご入居者様といきいきと働くスタッフの両方を実現したいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々としたホールを兼ね備えたリビングがあり、ボランティアによるピアノ演奏などの訪問や事業所での行事など、一同に会して楽しんでいる。また、ウッドデッキも利用者にとって憩いの場となっている。今年度は目標達成計画にのっとり、地域との交流に積極的に取り組み、小学生の『学区探検』での事業所訪問が実現、利用者小学生との交流に繋がっている。年2回の家族会では和やかな雰囲気の中、事業所からの報告や家族同士の交流の場があり、お互いの理解を深めることが出来ている。利用者の日々の様子を写真を撮り、リビングに掲示するだけでなく、1人1人のアルバムを作り、居室で本人と家族がゆっくりと見る事ができるように配慮している。施設長は地域のグループホームの管理者や地域包括支援センター職員と交流を図り、地域に根差した介護を展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づき、ボランティア等地域の方との交流を深めている。	事業所の理念をスタッフルームに掲げてあり、職員は仕事前に確認をしている。理念に加えて職員一人ひとりが自己点検できるように工夫されたシートも掲示している。地域とのつながりを大切に考えており、小学校、地域の企業、町内会、介護事業所、ボランティア等交流を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し(車両整備・販売会社のイベント、書店の朝市等)に参加している。	今年度より小学生の授業の一環である「地域探検隊」やボランティアの訪問など受け入れ、外部との交流を図っている。近隣で開かれている朝市や商業施設のイベントにも参加し、地域住民と利用者との交流が実現できている。	事業所の隣の敷地になる高校に、事業所主催の夏祭の手伝いの要請をされたと伺いました。今後も交流を発展させ、より一層地域との交流が深まる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を受けたり、地域の小学校からの学区探検等を受け入れたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、事故報告等に加え、当施設での困難事例等を挙げ、参加それぞれの立場からの意見を聞き、ケアへ反映させてもらっている。	民生委員、高齢者支援センター、他GH管理者、利用者代表、家族代表などの参加により、2ヶ月に1回、開催している。事業報告後、参加者から意見や質問がある。家族からはサービスに対しての率直な意見を聞く機会となっている。欠席者や参加できない家族には議事録を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターと連携を図り、在宅生活が困難な方を紹介して頂いたことがある。	運営推進会議には毎回高齢者支援センターが参加している。センターからは地域に潜むセルフネグレクト等の相談があり、積極的に関わることで利用につながったケースがあるなど、常に情報交換を行いながら、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を行い、身体拘束についての理解を深めている。ただし、玄関の施錠については一般家庭と同様に防犯上施錠している。	年1回、必ず内部研修を実施し、身体拘束について施設長から指導している。玄関と居室の窓は施錠している。施錠について家族からきちんと同意を頂き、安全面を考慮し、安心して過ごせる事業所を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回、職員研修を行い、高齢者虐待に対し理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を行い、実際成年後見制度を使っているご入居者様がおられることもあり、研修後もより理解できるよう努力したという職員の意見が聞けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時の契約締結には、しっかりと時間をかけて丁寧な説明を心掛けている。重要事項等に変更がある場合も書面及び直接説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や玄関前に設置している意見箱でご家族からの意見や要望を運営に反映させている。	年2回、家族会を開催している。和やかで話しやすい雰囲気を作るため、コーヒーや茶菓子を出したり、昼食の試食をしたりするなど工夫している。散歩や運動を増やして欲しいなど、家族からの意見を活かせるよう、事業所で検討し、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞き機会を設け、反映させている	代表者は定期的に職員と面談を行い、意見や提案を聞き運営に反映させている。	年2回、施設長が個人面談を実施し、振り返りの機会を設けている。その際に業務についての意見、処遇等の要望も聞いている。また、職員の努力や成果に対して評価する仕組みを作っている。職員が働きやすい環境を作るために希望休はできるだけ取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課表作成により、職員個々の勤務状況に対する思いを理解し、努力が認められる職員に対しては昇給等の評価を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育には力を入れ、社内研修を中心に必要に応じて社外研修、有料講習等への参加を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地域密着型サービス専門分科会」、「小地域で認知症を支える会」等への参加で有意義な情報交換に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規ご入居者様受け入れ時には、管理者及び看護師で自宅を訪問し、介護面・医療面・ご家庭での様子をしっかりと傾聴し、少しでも多くの情報収集、理解出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規ご入居者様受け入れ時の在宅訪問以外にもご家族様同席のカンファレンス、電話、メール等でも要望を伺える体制を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の相談段階でグループホーム対応でない場合もある為、医療機関や社会福祉施設等を紹介したことがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を把握し、日常生活を送る上でその機能を最大限に活用して頂くよう援助している。掃除や調理等役割作りにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会に来て頂き、時には一緒に外出し、本人の状況の把握をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に近所の人や親せきと手紙のやり取りをしている。また家族の協力の下、自宅に帰っている。	家族や知人の訪問が多い。面会はいつでも可能で、電話の取次ぎも随時行っている。家族と一緒に墓参りや美容院、外泊などしている利用者もいる。日頃からドラッグストアや100円均一の店、近くのアイス店、駄菓子屋などに出かけ、利用者本人が支払いができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することがないよう、居室内で長時間過ごす方は、職員と利用者が一緒に訪室し、コミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時ご家族様に対し、相談があればいつでも連絡して頂けるよう声掛けをしている。近隣の社会福祉施設等へ入居された場合には面会等に行かせてもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に本人の意向を聞き、ケアプランに反映している。	利用者本人の思いは日常生活の中で把握するようにしている。サービス担当者会議や家族の面会時などに、家族からの意見を聴き取っている。認知症の重度化により言葉で表現できない場合には、家族からの意見を参考にしたり、日々の様子から感じ取ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報収集を行い、今までと変わらない生活を送って頂けるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に細かく残し、本人の意向や残存機能を職員全員が把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のスタッフ会議や家族とのカンファレンスを開き、本人の意向に沿った計画の作成に努めている。	月1回のスタッフ会議でケアプランについて、担当職員と他職員で意見交換を行っている。出された意見や情報をもとに計画作成担当者が中心となりケアプランを作成をしている。体調面、医療面については看護師が主治医から意見を聞き、プランへ反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録は残し、本人の訴えや思いを計画に反映し、統一したケアを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には、かかりつけ医以外の受診はご家族様対応としているが、居住地や仕事の関係で都合がつかない場合は眼科、歯科、整形外科等の受診対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	災害時の避難協力を町内の自治防災組織に依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診があり、看護師より現在の状況を説明し、医師も一人ひとり時間をかけ診察されている。	現在は利用者全員が24時間往診可能な2カ所の医療機関を主治医としている。2週間に1回の往診で健康管理を行っているが、往診以外でも主治医の指示が必要と思われる場合はメールなどで随時相談をしている。歯科、眼科等他科受診については基本的には家族対応をお願いしているが、困難な場合は事業所に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かな事でも看護師に報告をし、看護師よりかかりつけ医へ報告、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は定期的にケースワーカーに連絡し状況を聞き、退院に向けてアセスメントに行ったり、カンファレンスを開いたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在そのような例はないが、終末期には本人、家族からの意向を聞き、心身状況を理解し本人に合わせたケアを行っている。	看取りに関する同意書も作成しており、できる限り本人、家族の希望に沿った終末期の対応ができるようにしていきたいとの意向はあるが、今の所看取り支援の経験はない。職員に対して看取り支援に関する内部研修を行いながら少しずつ理解を深めている段階である。	今現在は利用者の健康状態も良く、対象となる利用者はいないとのことですが、今後利用者・家族の希望で最期まで・・となることも考えられます。職員の意志統一とスキルアップが早急に必要かとおもわれます。施設長の豊富な知識と長年の経験を管理者、職員へしっかりと伝えていってくれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師やリスクマネジメント委員が中心となり、研修、実践研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施し、消火訓練や通報訓練をしている。	年2回、昼夜を想定し避難訓練を実施している。訓練では自動通報装置の操作や水消火器の使用なども行っている。社長と施設長が倉敷市の防災訓練へ参加したり、地域の自主防災組織に加入したりするなど、積極的に取り組んでいる。災害情報を得るためにラジオを準備している。	火災への防災対策はしっかりと練られています。今後、水害や地震など自然災害に対する避難訓練実施に向けて対策をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に尊厳とは何か、心理的虐待等についての研修を行い、理解を深めている。	接遇や尊厳について内部研修を定期的に行っている。利用者に対して親しい間柄ではあるが家族にはなり得ないということを自覚し、節度ある言葉かけや対応ができるよう、指導している。職員から利用者に対して気になる言動があった場合、施設長から直接指導することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人からの訴えがなかなか聞き出せない方については職員が決定してしまうのではなく2択にする等、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者、職員共に1日の流れは特に決めず、その時の本人の意志に基づいて生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の訪問理美容で散髪やパーマ等、本人の希望に合わせて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りやおやつ作りの日を設けて、入居者からのリクエストのあったものを役割分担を決め行っている。	調理済みの食材を使うことで毎日の買い物や調理にかかる時間を節約し、利用者に関わる時間多く持つように心がけている。衛生面でも安心感がある。時には利用者の希望で、お好み焼きやお寿司、ハヤシライス等、手作り献立を楽しむこともある。最近では利用者からピフテキを食べたいと希望があり、レストランへ行くなど外食の機会も作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態で提供し、少しでも自力摂取が出来るよう援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能を活かし、出来る事は自力で行って頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は尿意のない方でも、定期的にトイレ誘導を行い、トイレで排泄をするという習慣を維持している。	日中は時間を見計らい、声かけを行い、トイレで排泄できるよう努めている。夜間はトイレ誘導、またはパット交換など、利用者に合わせて対応している。自然な排泄が可能になるよう、十分な水分摂取や適度な運動を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑で採れた野菜等を使い、下剤だけでなく、自然に排便出来るよう援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況に配慮しながら、入りたいと言われた時に入って頂くよう援助している。	週に3回は入浴できるように、曜日も時間も利用者の希望に合わせてマンツーマンで介助を行っている。毎日入っている利用者もいれば、入浴を拒否する利用者もいて、職員は一人ひとりに合わせた声かけを行い誘導している。ゆず湯やしょうぶ湯等、季節ごとに楽しんだり、利用者の好みのシャンプーやせっけんを使用したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況を把握し、休息時間の確保や安眠確保をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬カードを個人カルテに入れ、すぐに確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日行事として、個人の希望を聞き、希望に沿った計画を立て援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	居室担当者をつくり、外出等の希望があった場合には、担当者を中心に計画、実施をしている。また、遠出になる場合には家族に対応して頂いている。	利用者からの〇〇に行きたいという希望にはできるだけ対応するよう心掛けている。担当職員が計画し、職員だけでは対応が難しい場合は家族の協力もお願いしている。映画鑑賞や美術館、墓参り等、行き先は様々である。日頃から洗濯干しや花の水やり、夕方にはウッドデッキに出て隣にある高校の部活動の様子(野球、サッカー等)を見学するなど、外にでる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かっており、外出時にはお小遣いを渡し、自分で精算して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員と郵便局へ行きはがきを購入し、投函したり、電話がかけたいと言われると対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の花や庭で採った花を置き、明るく過ごしやすい空間作りに配慮している。	天窓や掃き出し窓からの光が明るく、ソファや食卓などゆったりと配置している。壁面のコルクボードに写真や利用者の手作りカレンダーが掲示しており、季節感も感じる事が出来る。ウッドデッキで季節を感じながら食事やおやつを食べることもある。片方のユニットにはピアノも置くなどボランティア訪問や行事など利用者全員が集まるのに十分な広さを用意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂へソファを置き、ゆっくりと過ごせる空間を作っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用していた家具等、自由に持って来て頂いている。	各部屋には顔写真や花の絵など一人ひとりの目印になるような表札がかかっている。定期的にシーツ・カバー交換ができ、清潔が保たれている。居室担当者が中心となり、掃除や片付けを一緒に行っている。利用者の生活歴に合わせ、畳敷きに布団を使用している方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は基本的にバリアフリー構造となっているが、個々の状況にあわせた導線作りに努め、必要に応じてリビングや居室の様様替えを実施している。また、ご入居者様の生活スタイルに合わせてベッド、フロアマットを検討している。			